

AEON



第41期

MV中部通信

2013年3月1日▶2014年2月28日

MaxValu

マックスバリュ中部株式会社

証券コード 8171



代表取締役社長
鈴木 芳知

ごあいさつ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

当連結会計年度における日本経済は、政府主導による積極的な経済政策や日本銀行による金融緩和を背景に、緩やかな回復基調となりました。個人消費については、耐久消費財など一部で購買意欲の高まりがあったものの、円安に伴う燃料費の高騰や2014年4月の消費税率引き上げによる家計への負担増加懸念などもあり、依然として生活必需品への節約志向は続きました。加えて、当社の属するスーパーマーケット業界では、世帯所得が伸び悩む中、業種業態を越えた競合出店に伴うシェア争奪や価格競争の激化など、厳しい経営環境が続きました。

このような状況の中、当社は2013年3月1日付のマックスバリュ中京株式会社との合併により100店舗体制となり、「新生マックスバリュ中部」として継続的な成長と地域社会への貢献、更なる経営基盤の強化に取り組みました。

ここに、第41期のご報告をさせていただくにあたり、当社を育ててくださいます皆さまへの感謝の気持ちを胸に、さらに地域の発展に貢献し、地域に根ざした企業であり続けられるよう努力してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2014年5月

第41期の概況

◆新規出店

2013年3月	マックスバリュ岐阜元町店(岐阜県岐阜市)
	マックスバリュ上野小田店(三重県伊賀市)
7月	マックスバリュ長太の浦店(三重県鈴鹿市)
9月	マックスバリュ グランド名西店(名古屋市西区)
11月	マックスバリュ エクスプレス笠寺店(名古屋市南区)
	マックスバリュ桑名新西方店(三重県桑名市)

◆食品ディスカウント業態への転換

- ザ・ビッグ エクスプレス夏見橋店(三重県名張市)
(旧 バリュースター夏見橋店)
- ザ・ビッグ エクスプレス小俣店(三重県伊勢市)
(旧 バリュースター小俣店)

◆中国事業

2013年12月 マックスバリュ楽園店(江蘇省蘇州市)をオープン

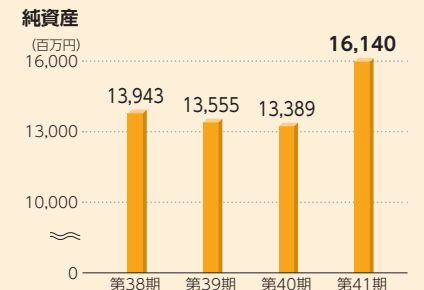
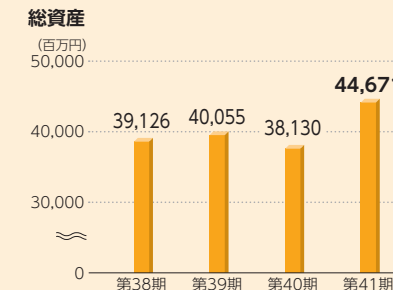
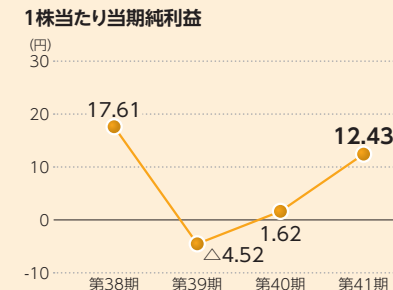
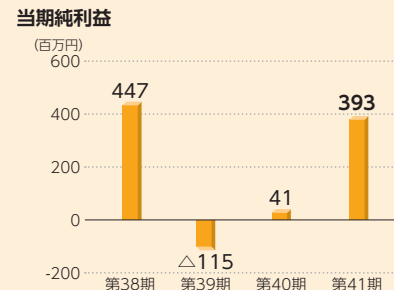
◆売上高の確保に向けた取り組み

- 「パワーアップセール」を2013年3月より継続実施
- お客さま感謝デーや火・水曜日を重点企画として強化
- 来店動機と客単価のアップにつなげるためイオンの電子マネーWAON(ワオン)の活用
- 安全・安心を提供するイオンのブランド「トップバリュ」の販売強化
- 地場野菜や地域食材等の地産地消の商品強化
- 調理時間の短縮につながるカット野菜、炒める・温めるだけの簡便商品の品揃えの拡充
- 冷凍食品、惣菜の量り売り「フードバー」の拡充
- グロサリー・日用雑貨品を中心に消費増税前の駆け込み需要に対応

◆経営構造改革

合併後の本部のスリム化、システムの変更、店舗作業手順の見直し等、業務の効率化と共通化を図りました。

■連結業績ハイライト ※第40期は決算期変更に伴う13ヶ月決算であります。



新生マックスバリュ中部に、ご期待ください！



Q1

第41期の業績はいかがでしたか。

マックスバリュ中京株式会社との合併により100店舗体制となり、更なる営業力強化に取り組みました。また、経営構造改革に着手し、システムをはじめとするイオングループ共通のインフラの活用、店舗作業手順の見直し等、業務の共通化と効率化にも取り組みました。

しかしながら、自社ポイントカードからイオンの電子マネー「WAON」への切り替え時の浸透の遅れ等により買上点数下降のトレンドが続いたことや、合併時のシステム変更、作業手順変更などに伴う人件費の増加や売上対策に伴う販促費の増加、また、設備費（電気料金）の増加などにより、経費削減が計画どおり進まず、販売費及び一般管理費が営業総利益の伸びを上回り、増収増益ではあったものの当初計画を下回る業績となりました。

Q2

今後の成長戦略についてお聞かせください。

当社は「お客さま満足（CS）」と「従業員満足（ES）」を向上するため、安全・安心で美味しく、価値ある商品をお買得価格で提供し、愛知県・岐阜県・三重県を中心とする中部圏にリージョナルチェーンとしての確固たる基盤を構築することを目指しています。そのために、営業力の強化、出店エリアの拡大、人材の育成、管理コストの削減、財務体質の強化等にスピードを上げて取り組んでまいります。また、イオングループの中期計画の1つであるアジアシフトの方針に基づき、中国江蘇省に出店エリアを拡大し、更なる飛躍を目指してまいります。

Q3

株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

当社は、長期的・安定的な企業業績の向上を図ることにより、株主の皆さまに対して安定的かつ継続的な配当による利益還元と収益力強化につながる内部留保の充実を行ってまいりたいと考えております。この政策に基づき経営基盤の拡充、将来の事業展開や収益力の向上、財務体質の強化および業績を総合して配当額を決定しております。

当社の剰余金の配当は期末配当の年1回を基本的な方針としており、配当の決定機関は株主総会でございます。

2014年2月期の期末配当金は、マックスバリュ中京株式会社との合併に伴う記念配当2円を加え、1株当たり12円とさせていただきます。また、次期（2015年2月期）の期末配当につきましても1株当たり12円とさせていただきます予定です。


株主の皆さまには、
新生マックスバリュ中部の成長に
ご期待いただきますとともに、
今後とも一層のご支援、ご鞭撻を
賜りますようお願い申し上げます。



経営統合によるシナジー効果


2013年3月1日、マックスバリュ中京株式会社と合併し、愛知・岐阜・三重・滋賀の4県に店舗展開する新生マックスバリュ中部株式会社に生まれ変わりました。『お客さま第一』を実現し、中部エリア(愛知・岐阜・三重・滋賀)における『ベストローカル企業』を目指します。

●2013年3月1日



マックスバリュ
中部株式会社

}



マックスバリュ
中京株式会社

合併

**新生
マックスバリュ
中部株式会社
誕生!**

●合併シナジー効果

売上高 前年比 **122.1%**
(※同期間比較)

- ◆ドミナントの進行による売上高の拡大
- ◆店舗開発力の強化による新規出店の加速
- ◆WAONへの切替による販促の拡大

荒利益率 前年差 **+0.6**ポイント

- ◆値入れ率の改善
- ◆物流の効率化

改善

- ◆本部スタッフの適正化
- ◆店舗人員の効率化
- ◆共通販促エリアでの効率的な販促

既存店の活性化

カテゴリの見直し、ザ・ビッグ エクスプレスへの業態変更等、競争に打ち勝つための活性化を行いました。

**27店舗の
活性化を実施
しました**

ポイント

- ◆顧客ニーズや商圏特性に合った部門・カテゴリの売場拡大
- ◆「即食」「素材」コーナーの明確化(デリカ&フローズン&デリーの横串化)



素材の強化



冷凍食品
売場の拡大



新規出店

愛知県に2店舗、岐阜県に1店舗、三重県に3店舗新規出店し、期末店舗数は103店舗となり、営業収益は1,500億円を超えました。



	合計	愛知	岐阜	三重	滋賀
前期末店舗	87	28	2	52	5
期中開店	6	2	1	3	0
期中閉店	1	0	0	1	0
合併に伴う増加	11	8	3	0	0
2014年2月末	103	38	6	54	5



毎日食べても飽きない
デリカ



コーヒーの
提供



簡便・即食
売場の拡大

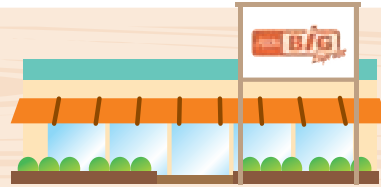


既存店2店舗をザ・ビッグ エクスプレスに 業態変更しました

ザ・ビッグ エクスプレスに業態変更し、競争店に打ち勝つ圧倒的な価格をお客さまに提供いたします。



非食品の強化



ザ・ビッグ
エクスプレス
夏見橋店

中国1号店をオープン



売上高、客数とも右肩上がりが増加しています。現地化を進め、早期にドミナントエリアを構築していきます。



中国事業
の取り組み

- 2012年 3月 中国事業担当を新設
- 2012年 9月 「蘇州代表処」を開設
- 2013年 3月 中国運営部を新設
- 2013年 4月 中国現地法人を設立
- 2013年 12月 マックスバリュ楽園店オープン

社会貢献活動

当社では、社会のお役に立つという経営理念のもと持続可能な社会の実現に向け、地域のお客さまとともに、環境・社会貢献活動にも取り組んでいます。



イオン
幸せの黄色い
レシートキャン
ペーン

2013年3月に被災地の子ども支援イオン幸せの黄色いレシートキャンペーンを実施。422万円を寄付致しました。

イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン

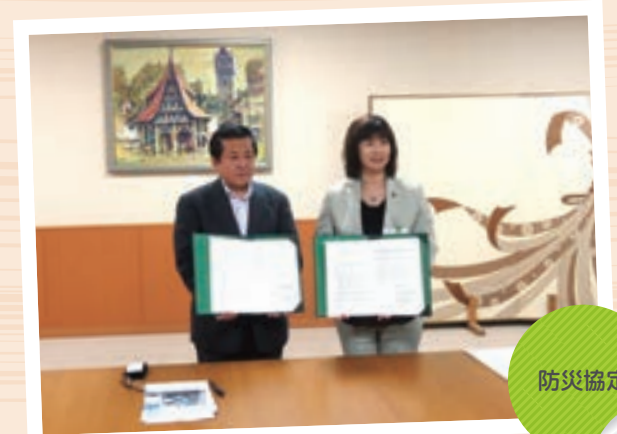
お客さまにお渡しする黄色いレシートを専用BOXに投函していただきますと、レシート合計金額の1%にあたる物品がボランティア団体などに寄付されます。



植樹活動



店舗で行う植樹のほか、各地で行う植樹にも参加しております。



防災協定

2013年7月オープンのマックスバリュ長太の浦店の屋上に津波発生時の緊急避難場所を設置。鈴鹿市と協定を締結致しました。



トピックス

マックスバリュ中部の 店舗戦略



当社は、安定的に新規店舗の出店を推し進めるとともに、既存店舗の計画的なリニューアル、大都市郊外の発展やモータリゼーションの進展が加速し、経済成長が続く中国での展開に向けた取り組みを強化していきます。



9月



マックスバリュ グランド名西店
(名古屋市西区)

11月



マックスバリュ桑名新西方店
(三重県桑名市)

11月



**マックスバリュ エクスプレス
笠寺店** (名古屋市南区)

海外展開

～蘇州市にマックスバリュ中部の
中国1号店誕生～
**マックスバリュ楽園店
グランドオープン**

当社の子会社 永旺美思佰樂(江蘇)商業有限公司(以下、マックスバリュ江蘇)は、蘇州市高新区に中国における第1号店「マックスバリュ楽園店」をオープンいたしました。

イオンは、イオングループ中期経営計画(2011年度～2013年度)の中で、中国やアセアン地域においてグループ一体となった成長を目指す「アジアシフト」を掲げています。この方針のもと、当社は成長戦略として中国事業展開に向けて、2013年4月、江蘇省蘇州市に永旺(中国)投資有限公司(イオングループ中国本社)との合併でマックスバリュ江蘇を設立しました。

今後はマックスバリュ江蘇が蘇州市エリアを中心とする江蘇省に、地域のお客さまの暮らしを支えるスーパーマーケットを多店舗展開し、中国におけるイオンのスーパーマーケットブランド「マックスバリュ」の確立を図ってまいります。



マックスバリュ楽園店

店舗譲受

(2014年4月1日)

当社が進める大都市シフトの一環として、イオンマーケット株式会社が中京圏で展開する食品スーパーマーケット6店舗を譲り受けることにより、名古屋市を中心とする愛知県内におけるスーパーマーケット事業の基盤強化と更なる拡充を図ってまいります。

イオンマーケット株式会社は、イオン株式会社が2013年4月に完全子会社化した株式会社ピーコックストアを商号変更した会社で、「ピーコックストア」[Pマート]の屋号で首都圏・阪神圏の大都市圏にスーパーマーケットを展開しています。



マックスバリュ本山店



マックスバリュ千代田店



マックスバリュ本郷店



マックスバリュ藤が丘店



マックスバリュ平針店

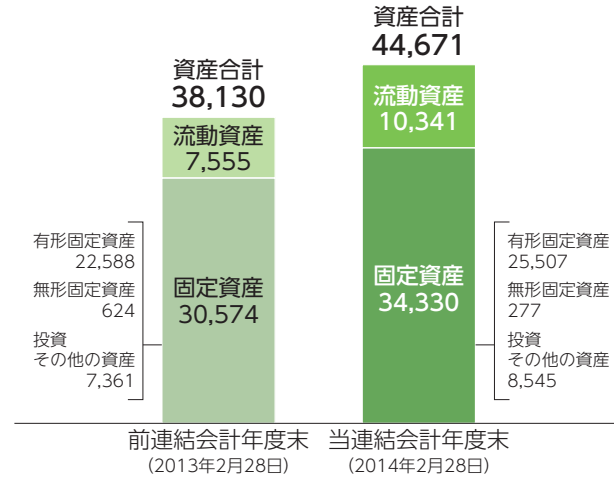


マックスバリュ三好店

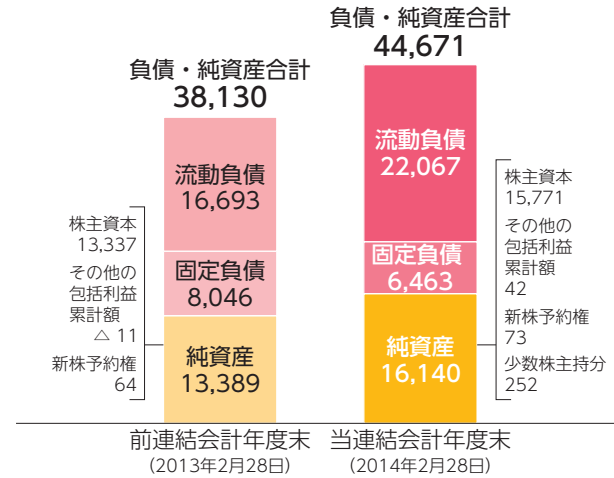
※前期より連結会計年度末日を従来の1月31日から2月末日に変更いたしました。前期は2012年2月1日から2013年2月28日までの13ヶ月決算であります。

■ 連結貸借対照表 (単位：百万円)

資産の部



負債・純資産の部



資産の部 変動要因

資産

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ65億41百万円増加し、446億71百万円となりました。これは主に、流動資産の増加27億85百万円、有形固定資産の増加29億18百万円、投資その他の資産の増加11億84百万円等によるものであります。

負債・純資産の部 変動要因

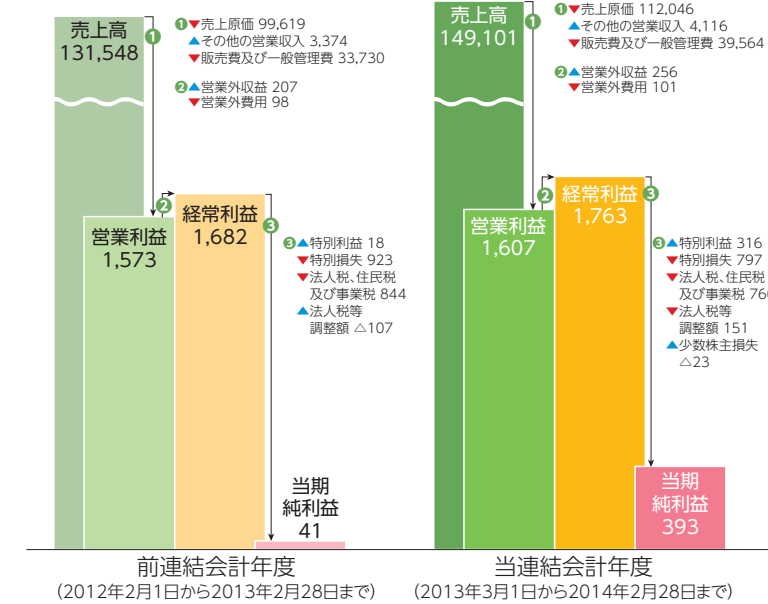
負債

当連結会計年度末の負債総額は、前連結会計年度末に比べ37億91百万円増加し、285億31百万円となりました。これは主に、買掛金の増加20億8百万円、長期借入金の増加5億79百万円、未払金及び未払費用の増加5億79百万円、流動負債の「その他」の増加5億68百万円等によるものであります。

純資産

当連結会計年度末の純資産は、前連結会計年度末に比べ27億50百万円増加し、161億40百万円となりました。これは主に資本剰余金の増加21億93百万円、利益剰余金の増加1億39百万円、少数株主持分の増加2億52百万円等によるものであります。

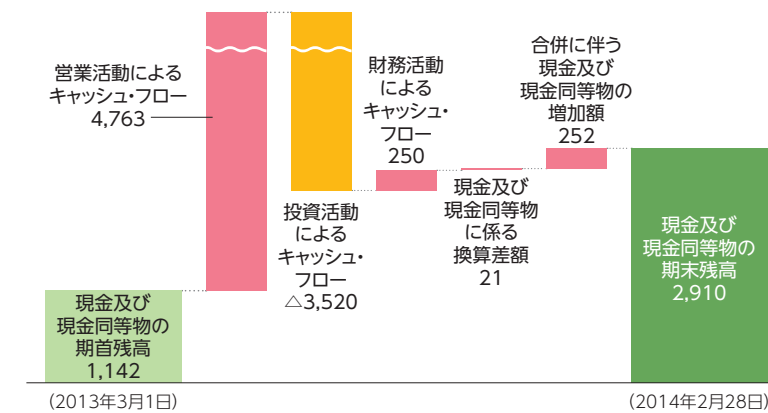
■ 連結損益計算書 (単位：百万円)



連結損益計算書 変動要因

合併後の本部のスリム化、システムの変更、店舗作業手順の見直し等、業務の効率化と共通化を図りましたが、人件費や設備費(電気料金)が増加する等、経費削減が計画どおり進まず、販売費及び一般管理費の伸びが営業総利益の伸びを上回り、増収増益ではあったものの当初計画を下回る業績となりました。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 変動要因

営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動の結果、得られた資金は47億63百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益12億82百万円、減価償却費25億8百万円、減損損失7億74百万円の計上と、法人税等の支払額6億43百万円等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動の結果、使用した資金は35億20百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出29億93百万円等によるものであります。

■ 会社概要

社名	マックスバリュ中部株式会社 (証券コード 8171)
設立	1973年8月21日
事業内容	食料品、日用雑貨品等の小売販売
資本金	39億50百万円
本社	〒460-8605 愛知県名古屋市中区錦一丁目18番22号
店舗数	103店舗
従業員数	1,073名 (正社員)

■ 株式の状況

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式総数	31,734,623株 (自己株式75,116株を含む)
単元株式数	100株
総株主数	14,146名

■ 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
イオン株式会社	21,140	66.77
株式会社ウメト	736	2.32
株式会社百五銀行	662	2.09
株式会社第三銀行	631	2.00
三菱食品株式会社	594	1.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口4)	385	1.22
マックスバリュ中部取引先持株会	327	1.03
竹内 晶子	325	1.03
中西 久雄	320	1.01
加藤産業株式会社	300	0.95

(注) 持株比率は自己株式75,116株を控除して計算しております。

■ 役員 (2014年5月21日現在)

代表取締役社長	鈴木 芳知
取締役	山崎 浩史
取締役	久留 幸二
取締役	望月 俊二
取締役	廣村 敦
取締役	小泉 覚
取締役	岡田 邦和
取締役	内山 一美
常勤監査役	山崎 猛
監査役	清水 良寛
監査役	井上 義信
監査役	熊谷 直義

(注) 監査役全員が社外監査役であります。

● 所有者別分布状況



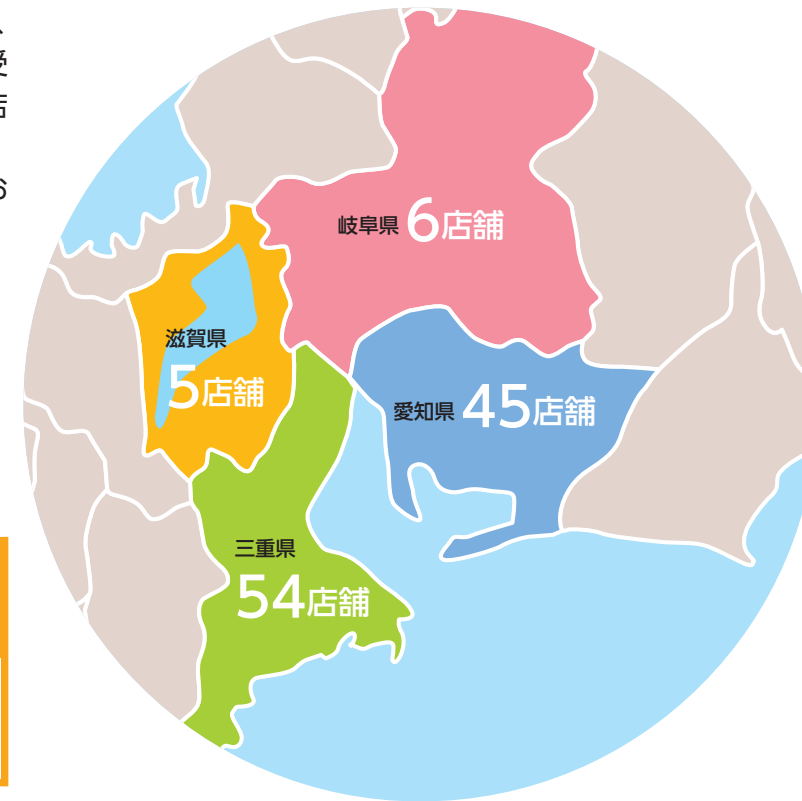
● 所有株式数別分布状況



マックスバリュ中京株式会社との合併、イオンマーケット株式会社からの譲り受け、新規出店に伴い、店舗数は110店舗となりました。
新生マックスバリュ中部は皆さまのお越しを心よりお待ちしております。



★ 詳しい店舗情報につきましては、こちらをご覧ください。
<http://www.mv-chubu.co.jp/>
マックスバリュ中部のホームページでは、お得なショッピング情報から最新のニュース、IR情報などマックスバリュ中部をご理解いただくための様々な情報を提供いたしております。



新規出店情報



2014年3月 (業態変更)
ザ・ビッグ エクスプレス松阪高町店
(旧 バリュースセンター松阪高町店)



2014年4月
マックスバリュ山城店



2014年4月
マックスバリュ エクスプレス瑞穂通店

●株主メモ

- 事業年度** 毎年3月1日から翌年2月末日まで
- 基準日** 毎年2月末日
そのほか必要がある場合には、あらかじめ公告いたします。
- 定時株主総会** 毎年5月に開催
- 公告方法** 電子公告
ただし電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
(<http://www.mv-chubu.co.jp/irinformation/>)
- 上場証券取引所** 名古屋証券取引所
- 株主名簿管理人** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所** 〒460-8685
名古屋市中区栄三丁目15番33号
三井住友信託銀行株式会社
証券代行部
- 特別口座の
口座管理機関** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 郵便物送付先
(電話照会先)** 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社
証券代行部
電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店でっております。

株主優待制度のご案内



毎年2月末日現在の、100株以上所有の株主様に、「株主様ご優待券（額面100円）」を贈呈いたします。「株主様ご優待券」は、全国のマックスバリュ、イオンなどでお買物1,000円毎に1枚ご利用いただけます。

100株以上1,000株未満	→	50枚 (5,000円相当)
1,000株以上2,000株未満	→	100枚 (10,000円相当)
2,000株以上5,000株未満	→	200枚 (20,000円相当)
5,000株以上	→	250枚 (25,000円相当)

毎年5月発行(年1回)。

「株主様ご優待券」をご利用されない場合は、ご希望により「松阪牛しぐれ煮」を送付させていただきます。
4月上旬発送予定の「優待のご案内」をご確認ください。

写真は300g入りです。▶

100株以上1,000株未満	→	150g入り
1,000株以上	→	300g入り



(注) 株主優待制度は変更になる場合がございます。